

# 宮城県林業普及活動情報

2023. 8月号 No. 183

## もくじ

各地の林業普及活動情報	P 2～11
○ツヤハダゴマダラカミキリ被害調査	(大河原地方振興事務所)
○タラノメ生産者からの相談対応	(大河原地方振興事務所)
○「柴田農林高等学校演習林実習」への支援	(大河原地方振興事務所)
○「仙南地域素材生産・流通連絡会議」開催	(大河原地方振興事務所)
○原木しいたけ出荷制限ロット解除のための現地確認	(仙台地方振興事務所)
○外来カミキリ虫「ツヤハダゴマダラカミキリ」の被害調査	(仙台地方振興事務所)
○森林経営計画制度の説明	(仙台地方振興事務所)
○林業教室実地研修の開催	(仙台地方振興事務所)
○森林経営管理制度の推進に向けた取組～市町村モデル支援（伴走型）～	(北部地方振興事務所)
○鳴子こけしの材料確保に向けた取組	(北部地方振興事務所)
○「くりはらdeキッズ・コケリウムコンテスト/ワークショップ」の開催	(北部地方振興事務所栗原地域事務所)
○きくらげ栽培の検討支援	(東部地方振興事務所)
○木育イベントへの協力	(東部地方振興事務所)
○木質バイオマスの無償提供支援	(東部地方振興事務所)
○町森林経営計画の策定支援	(東部地方振興事務所)
○森林経営管理制度登米圏域推進会議の開催	(東部地方振興事務所登米地域事務所)
○森森フェスタ2023 in YASSE	(気仙沼地方振興事務所)
○スマート林業・森林調査講座の開催	(林業技術総合センター)
○林業作業士3年目研修への支援	(林業技術総合センター)
○林業作業士2年目研修への支援	(林業技術総合センター)

## ツヤハダゴマダラカミキリ被害調査

大河原地方振興事務所

【3日(木)】

ツヤハダゴマダラカミキリの被害について情報提供があったため、被害のあった施設の管理者及び町と現地調査を行いました。

その結果、情報提供があった樹木はツヤハダゴマダラカミキリの被害木であることが確認できたため、被害木から約300m範囲の樹木についても確認したところ、トチノキ、カツラ各1本に脱出孔、産卵痕、フラスが確認され、被害が疑われました。

被害木については処理をお願いすると共に周囲の樹木の巡視をお願いし、今後も町と情報共有しながら、被害の状況を注視していきます。



【調査の様子】

## タラノメ生産者からの相談対応

大河原地方振興事務所

【9日(水)】

タラノメ生産者から、タラノキの生産に関する相談があり、大河原農業改良普及センターと合同で現地確認と意見交換を行いました。

生産者が持ち込んだ10箇所の畑の土壌について、普及センターにおいて土壌分析を行い、その結果について情報提供したほか、当方からもタラノキ生産に関する参考資料の提供を行いました。

植栽場所によっては、水はけが悪い箇所があるため、植栽する際の畝の高さや、土壌改良等についてお伝えし、生産者も引き続き、工夫しながら生産に取り組んでいきたいと意欲的な様子が見られました。

引き続き、関係機関と連携し、生産者の生産量と品質向上に繋がるよう支援していききたいと思います。



【現地確認の様子】

## 「柴田農林高等学校演習林実習」への支援

大河原地方振興事務所

【7日(月), 22日(火)】

3年生では、森林作業道について、位置づけ、役割・規格、勾配の算出等の講義を行なった後、各グループ毎に図面での線形検討を行い、実際作設された現場の作業道とを比較しました。生徒からは、「森林作業道を見たことがなく非常に勉強になった」旨の意見がありました。

2年生では「宮城の森林・林業、林業機械等の基礎知識」について講義し、宮城県の森林・林業の現状や林業機械について理解を得ることが出来ました。また、高性能林業機械を2台使用し、プロセッサによる造材と、フォワーダによる積み込み・運搬について、オペレーターの指導の下、実際に操作体験を行ったことで、林業という仕事に対する関心を高めていただきました。



【勾配算出の実習】



【フォワーダ操作実習の様子】

## 「仙南地域素材生産・流通連絡会議」開催

大河原地方振興事務所

【30日(水)】

事務所から県全体及び仙南地域における素材生産の現状報告後、県森林組合連合会と林業振興課からそれぞれ情報提供を受け意見交換を行いました。

意見交換では、①実績・計画②木材流通上での工夫点等③広葉樹等について意見が交わされ情報を共有することができました。なお、連絡会議の今後の在り方については、アンケートの結果を踏まえ、事務局案として、年1回7～8月に開催、活動内容は木材需給に関する情報交換・木材需要拡大情報・補助事業情報などを主題とし、現地視察も取り入れていくことを提案しました。



【会議の様子】

## 原木しいたけ出荷制限ロット解除のための現地確認

仙台地方振興事務所

【7日(水), 23日(火)】

仙台市泉区、大衡村の原木しいたけ生産現場を調査し、適切な生産管理が行われていることを確認できました。

出荷規制のかかっている地域では、生産者が、ホダ場に麻袋等を敷いてホダ木と土壌の接触を防ぐなどの放射物質対策を行い、安心・安全なしいたけの生産を行っています。



【麻袋が敷かれたホダ場】

## 外来カミキリ虫「ツヤハダゴマダラカキミリ」の被害調査

仙台地方振興事務所

【21日(月)】

被害発生情報のあった箇所周辺の森林の樹木、公園や街路樹として植栽された樹木について被害調査を行いました。

調査を行った富谷市の街路樹等でツヤハダゴマダラカキミリのものと思われる産卵痕、フラス等の被害痕跡を複数確認しました。

街路樹以外では被害痕跡を確認することができませんでした。



【産卵痕】



【排出されたフラス】

## 森林経営計画制度の説明

仙台地方振興事務所

【22日(火)】

山元町の坂元愛林公益会事務所で行われた理事会に参加し、今年度で期間が満了となる森林経営計画について協議を行いました。今期、次期計画の方針などが話し合われ、県で推進している一貫作業システムについて説明を行いました。

森林組合を交えた協議により、公益会の今後の方針が決定されました。



【理事会の様子】

## 林業教室実地研修の開催

仙台地方振興事務所

【23日(水)】

県が行う林業教室に係る仙台管内の受講生を対象に、測量等の森林調査や、間伐、木材利用に向けた取組み、今年度より制度が新しくなった伐採届出等に関する研修を行いました。

現地研修では、測量の基礎となるコンパス測量の原理や、造林・間伐の基礎知識について理解を深めました。

コンパス機器に初めて触れた受講生からは「山林には起伏があり、斜距離と水平距離があるということ、身をもって実感しました。補助事業の検査書類の作成補助をすることがあり、今後の仕事に役立てていきたい。」との感想がありました。



【コンパス測量の実習】

## 森林経営管理制度の推進に向けた取組 ～市町村モデル支援(伴走型)～

北部地方振興事務所

【17日(木)】

8月22日(火)に開催される市町村森林経営管理サポートセンター((一社)宮城県林業公社)主催の意見交換会において、取組状況を説明する色麻町及び加美町と、説明資料等に関する打合せを行いました。

今回の打合せでは、これまでの作業状の再確認や今後各町で必要となる作業、具体的なスケジュールや方向性等を確認することができました。



【色麻町との打合せの様子】



【加美町との打合せの様子】

## 鳴子こけしの材料確保に向けた取組

北部地方振興事務所

【23日(水), 25日(金)】

こけしの材料となるミズキ材の確保について、こけし工人から相談があったことから、関係者の情報をもとに、伐採候補地を選定し、資源量把握のための毎木調査を実施しました。

今回調査した箇所は、ミズキの一斉林で、素性が良く、高い歩留まりが期待できる林分でした。

今後も、地域の伝統文化である鳴子こけ



【樹高確認】

しの材料を地域内で調達できるよう必要な支援を進めていきます。



【毎木調査】

### 「くりはらdeキッズ・コケリウムコンテスト／ワークショップ」の開催

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【11日(金), 12日(土)】

苔の魅力を年齢層等を広げて発信することを目的に、泉青年会議所が主催する「杜のコケリウムコンテスト」のサテライト会場として、栗原市在住の小学生を対象とした「くりはらdeキッズ・コケリウムコンテスト／ワークショップ」を開催しました。

ワークショップは、事前に各小学校に配布したチラシのQRコードから参加申込を受け付け、2日間で42名の参加がありました。

ワークショップ当日は、講師による苔のお話、コケリウムの作成実演の後、各自作成に取りかかり、用意した赤玉土等で土台を作り、9種類の苔、カラーサンドや石、持ち寄ったキャラクターグッズなどを自由な発想で配し、自分だけのコケリウムが生み出されました。

そして完成したコケリウムを撮影ブースにおいてスマートフォンで撮影し、チラシにあるQRコードから画像を送信して、コンテストのエントリーが完了しました。

コンテストでは、他の会場からの応募作品と合わせて画像による審査が行われ、各賞が選考されることとなります。参加者のひとり「楽しかった。コンテストの結果も気になる。来年も参加したい」と笑顔で話してくれました。



【コケリウムに大好きなキャラクターグッズを入れて思い思いの世界を表現しました】



【スマホからコケリウムの画像を送信しコンテストに応募しました】

## きくらげ栽培の検討支援

東部地方振興事務所

【2日(水)】

農業経営の一環で、きくらげの栽培を考えている農家を訪問し、栽培のポイントや周辺市況の情報を提供しました。

先方からは、既存施設を活用したいことや、通年的な雇用につなげたいなどの要望のきっかけをお聞きしました。当方からは、栽培管理は比較的容易な反面、収穫選別などに手間がかかることなどを説明するとともに、農業経営上で有効かを改めて検討してもらうようお願いしました。



【情報交換の様子】

## 木育イベントへの協力

東部地方振興事務所

【19日(土)】

東松島市内の工務店が取り組む木育活動・地域貢献活動としてのイベントの開催を支援しました。

社屋前の会場では、参加した親子8組の作業を同社の技能者（大工）がアドバイスすることで「丸太切り」や「くぎ打ち」、「カンナかけ」など、木とふれあうコツを伝授してもらいました。また、記念製作として、「収納つき椅子」に取り組み、「とても楽しかった」、「道具にも慣れ、作業が楽しかった」等の感想が聞かれました。一方、主催者側からも「こうした機会は社員にとっても成長の場」と捉えるなど、双方にとって、有意義な活動となりました。



【体験かながけの様子】

## 木質バイオマスの無償提供支援

東部地方振興事務所

【5日(土)ほか計5日】

林道開設の支障木を活用した、バイオマスの配布を通じて、町民への森林・林業PRを図る取組を支援しました。

事前に町広報で配布内容をお知らせする一方、当方では、扱いやすいよう再度、材を玉切るなどの準備作業を行いました。

猛暑が続きましたが、配布日を複数設けたところ、多くの町民が訪れ、上限量10本が各軽トラックなどに積み込まれ配布されました。最終的には準備した全量がなくなり、利用者アンケートでは、多くがストーブ用だったほか、キャンプや木工加工などもあり、町民の様々な木材ニーズを把握することができ



【配布の状況】

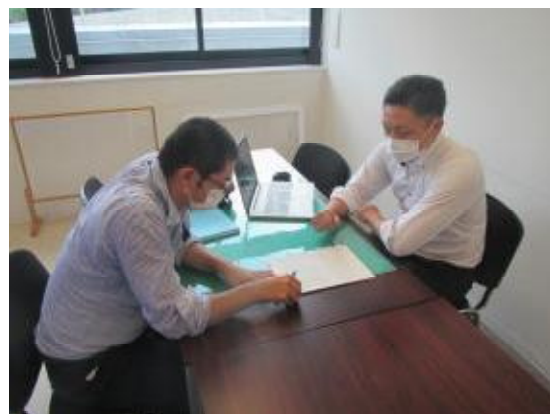
ました。

### 町森林経営計画の策定支援

東部地方振興事務所

【30日(水)】

継続的に支援を行っている女川町の森林経営計画策定作業について、今回は間伐箇所の選定支援を行いました。全体的に高齢級林分が多いことから、今期内に補助対象林齢を超える林小班を優先的に整備対象としてピックアップし、あわせて森林計画図に対象森林を着色するなど、整備箇所の提案を行いました。今後は対象地域の優先度の決定などの作業支援を行う予定です。



【業務支援の様子】

### 森林経営管理制度登米圏域推進会議の開催

東部地方振興事務所登米地域事務所

【29日(火)】

第1回目の圏域推進会議を開催し、森林経営管理制度における令和5年度の取り組み内容や集積計画の策定状況、地区ごとの課題等について情報共有するとともに令和6年度以降の森林環境譲与税の用途について検討し、理解を深めることができました。



【圏域推進会議の状況】



## 森森フェスタ2023 in YASSE

気仙沼地方振興事務所

【11日(金)】

NPO法人リアスの森応援隊が主催する気仙沼市の山の日恒例イベント「森森フェスタ2023 in YASSE」が気仙沼市旧月立小学校及び周辺山林で開催されました。

当イベントでは親子木工教室やチェーンソー薪割り体験、林業機械への試乗体験などの体験型ブースの他に、旧月立小学校校舎で食べる八瀬学校そばや、地元食材を活用したお惣菜など様々な飲食ブースも出展しており、猛暑の中でもイベントは大盛況でした。

なお、林業振興部でもブースを設け、ドローン操縦体験、気仙沼管内産きのこの試食コーナー（しいたけの唐揚げ・キクラゲの天ぷら）、なりきり林業キッズコーナー、林業PRコーナーと幅広い取組を実施しました。中でもドローン操縦体験は特に人気で、親子渋滞が発生する程でした。

来場いただいた皆さんには、大変興味を持ってもらえたと思います。来年度の山の日には気仙沼でお待ちしております。



【林業振興部ブース】



【ドローン操縦体験】



【試食メニュー：しいたけの唐揚げ】

## スマート林業・森林調査講座の開催

林業技術総合センター

【9日(水), 30日(水)】

みやぎ森林・林業未来創造カレッジの主催により宮城県林業技術総合センター(大衡村)にてスマート林業・森林調査講座を開催しました。9日は、実践・ドローンのコースで、「無人航空機の法制度」に関する講義、「無人航空機の森林業務活用」に関する実習をしました。

30日は、実践・GNSSのコースで、「GNSS測量機器と活用方法等」に関する講義、「機器の操作・データの取扱」に関する実習を実施しました。

今後も研修生のニーズに応じた参加型の研修を実施していきます。



【実践・ドローンコース 操作実習】

## 林業作業士3年目研修への支援

林業技術総合センター

【9日(水)】

13名の研修生を得て、県林業労働力確保支援センターから森林施業の体系及び森林整備の省力化・低コスト化作業に関する講義依頼があったので、フォレストワーカー研修テキストに沿って解説しました。

テキストの他、原価管理及び森林作業道作設手法について教示した上で、森林計画図から1小班群を選択し、3班に分かれ事業利益を試算のうえ代表者に発表いただき学習効果を高めました。

今後も林業就業者の技能向上に努めます。



【実習の状況】

## 林業作業士2年目研修への支援

林業技術総合センター

【30日(水)】

13名の研修生を得て、県林業労働力確保支援センターから現場作業の改善力及び造林作業における省力化、かかり木等処理の進め方に関する講義依頼があったので、フォレストワーカー研修テキストに沿って解説しました。

まず、コミュニケーション能力向上のため4班に別れ他已紹介の他、所内林分を対象に「チェンソーによる伐木作業に関する作業計画」を各自作成の上、代表者に発表いただきました。また、A4用紙を用いた丸のこ刃の



【計画作成の状況】

研ぎ角の出し方やかかり木処理に活用できるロープワークの基本について指導しました。

林業の技能ではさまざまな角度の体得が求められますが、新規林業就業者には、あえて用具に頼らず、技能を体得する手段を知ること、自から工夫して仕事が進められる人材になってほしいと考えています。



【ロープワークの実習】